

救急医学

1 臨床実習の概要

救命救急科実習では、救急医療センターに受診するすべての患者診療に積極的に参加し、主に緊急性の高い重症患者における診断、検査、治療を学ぶ。ユニット講義の学習を発展させ、臨床実習だけでなく、関連のユニット講義の到達目標も合わせて達成するように進める。

2 金沢医科大学の到達目標（アウトカム）

- ①豊かな人間性と倫理観
- ②生涯学習
- ③医学知識と技能
- ④患者中心・チーム医療とコミュニケーション能力
- ⑤地域医療・社会貢献・国際貢献
- ⑥科学的態度・探求心

3 臨床実習の到達目標（アウトカム）：

※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学の到達目標との関連を示す。

- 患者および患者家族、他の医師・多職種と良好な関係を作ることがきる（①④）
- 緊急性の高い疾患・損傷に対する判断力を養う（③）
- 症例を通して学んだことをプレゼンテーションできる（文献検索と理解など）（②③④⑥）
- 救急患者の診療を通して・・・
 - ・ 医療面接、患者家族、救急隊から情報収集ができる（①④）
 - ・ 収集した情報から緊急性の高い鑑別診断を考え、優先順位をつけて検査、処置などを計画できる（③）
 - ・ 高齢者の医療制度、医療環境を理解して処遇を考えることができる（⑤）

※主要な疾患、症候、検査、治療

症候

心肺停止、呼吸不全、意識障害、ショック、多発外傷など

疾患・治療

不整脈、多発外傷、循環血液量減少性ショック、神経原性ショック、心原性ショック、アナフィラキシーショック、急性薬物中毒など

検査など

動脈血ガス分析、血糖値測定、CTscan、MRI、超音波検査など

4 学習方略

救急医療センター、病棟、ICU、機会があればドクターカーで出勤し救急現場で実習する

5 事前事後学修について

臨床実習開始前に臨床実習予習ノートを作成しておくこと。ユニット講義を復習しておくこと。

【自己学習（事前事後学修）に必要な時間】

実習1日あたり 予習：30分 復習：30分

6 課題（実習中の課題やレポート等）に関するフィードバック

プレゼンテーションは、経験した症例及び学習した事を他のグループメンバーに教える事を目標に行う。

7 評価

評価項目	評価割合
マナー・コミュニケーション	15 %
実習参加の積極性	30 %
症例提示	15 %
学習成果	15 %
問題意識	10 %
出席状況	15 %
上記の評価項目を別途定めた臨床実習の評価基準に沿って判定する。	

8 実習スケジュール

別項参照

9 教育担当者

実習責任者：和藤 幸弘（救急医学）

担当教員：和藤教授、牛本助教、伊藤助教、東谷助教、平川助教

10 参考図書・文献

購入すべき図書

1. 「標準救急医学」第5版 医学書院 監修 日本救急医学会

救急医学 臨床実習スケジュール表

第一週目

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月			カンファレンス・回診・ オリエンテーション 救急(医局) [和藤]					自習			～22:00 救急外来 [和藤]
火			外傷初期診療 [東谷]					自習			～22:00 救急外来 [和藤]
水			除細動 [牛本・伊藤・平川]					自習			～22:00 救急外来 [和藤]
木			講義 [和藤]					自習			～22:00 救急外来 [和藤]
金			臨床推論								

第二週目

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月			カンファレンス・回診 救急(医局) [和藤]					自習			～22:00 救急外来 [和藤]
火			講義 [平川]					自習			～22:00 救急外来 [和藤]
水			講義 [牛本・伊藤・東谷]					自習			～22:00 救急外来 [和藤]
木			症例発表: 救急 (医局) [和藤]					症例発表 [和藤]			
金			臨床推論								

救急医学臨床実習スケジュール表は別に定め、実習第一日目の午前9時に配布する。
 実習第1日目の集合場所：病院3号棟1階 救急医学 医局（カンファレンスルーム）
 時間：午前9時

（注）実習は夜間6時から22時にも行うが、全体で一日7時間を越えないように配慮して計画する。

※月曜日が休日の場合は、前週金曜日または火曜日8時50分に救急医学秘書室にて予定変更を確認すること。